

平成19年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	39	学校名	常北高等学校			課程	全日制		学校長名	渡邊一夫						
教頭名	駒木根 啓美								事務(室)長名	佐藤一彦						
教職員数	教諭	19	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	2	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	2	技術職員等	2	計	30
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計	クラス数			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	16	13	25	11	28	10			68	35	103	8			
	科															
	科															

2 目指す学校像

創立以来44年の歴史と伝統に基づき、校訓の「至誠、勤勉、協和」の精神を徹底させ、心身ともに調和のとれた人間形成を図るとともに、地域社会に貢献できる学校づくりを目指す。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	昨年から学力向上スーパープランの小人数授業が国語・数学・英語で実施されているが、まだ基礎学力が不足している生徒や、学習意欲が乏しい生徒が見られる。	個に応じた学習指導や分かる授業の展開により、基礎学力の向上を図るとともに、学習意欲の喚起を図る必要がある。
進路指導	平成18年度卒業生53名の内、進学17名・就職30名・未定者6名となり、前年度より進路未定者は減少した。しかし、進路に対する意識がまだ低い。	進路ガイダンスや体験的活動等の実施を通して、1年次からのキャリア教育を推進することが求められる。
生徒指導	多くの生徒の生活態度は真面目であるが、基本的な生活習慣が確立されていない生徒が一部にあり、遅刻を繰り返す生徒がいる。また、規範意識が低いため、社会のルールやマナーを守れない生徒がいる。	基本的な生活習慣の育成を図るとともに、規律ある生活等の意義について理解を深め、社会のルールやマナーを守る大切さを理解させる。
特別活動	生徒数の減少等により、部活動が低調である。また、ホームルーム活動にはホームルーム活動資料集を使うなどして、ホームルーム活動の充実を図っているが、まだ指導に工夫等が必要である。	学校として部活動の加入率を高めるとともに、ホームルーム活動の活性化を図る工夫が必要である。

4 中期的目標

1	学校行事を精選し、授業時間を確保するとともに、1時間、1時間の授業の充実を図る。
2	授業や特別活動等を通して心の教育に努め、モラルやマナーを身に付けさせ、基本的な生活習慣の確立を図る。
3	挨拶の徹底を図るとともに、遅刻防止や時間厳守の態度を身に付けさせる。
4	部活動への加入を促進し、活性化に努め、個性の伸長と忍耐力・体力の向上を図る。
5	国際理解教育を推進して、国際社会に生きる人間の育成を図る。

5 本年度の重点目標

学校としての組織目標

1	生徒一人一人の適性や能力に応じた学習活動を実践し、基礎学力の向上を図る。
2	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚に努め、豊かな心の育成を図る。
3	キャリア教育により望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒の進路実現に努める。
4	部活動の活性化を図り、個性の伸長と忍耐力・体力の向上を図る。
5	地域との連携を目指す開かれた学校づくりに努める。

重点項目	重点目標
分かる楽しさが実感できる授業の展開による学習指導の充実	① 生徒の実態に応じた十分な教材研究、公開授業の積極的な参観、教科内の連携・研修等を通して学習指導の質的向上を図る。 ② 少人数学習の展開に一層の工夫・改善を図る。 ③ 課題の提出や学習進捗表の活用を図りながら、学習内容の定着を図る。
規範意識の高揚を育む生徒指導の充実	④ 計画的・継続的な生徒面談、家庭訪問、及び充実したホームルーム活動を通して、生徒理解に努める。 ⑤ 頭髪・服装指導や遅刻防止等の徹底に努め、基本的な生活習慣の確立に努める。 ⑥ 規範意識や社会性の育成に努める。
希望を実現させる進路指導の充実	⑦ 生徒の実態や特性を踏まえ、諸テスト等の進路資料を活用したり、面接指導等を充実させるなど、進路指導の充実を図る。 ⑧ 社会人講師の活用やインターシップ等の実施により、進路意識の高揚を図る。 ⑨ 資格取得の奨励を通してより確かな進路実現を図る。
特別活動の活発化	⑩ 生徒が充実・達成感を実感できる部活動等の積極的な指導に努める。 ⑪ 部活動等を通して、規律ある生活態度の修得や忍耐力等の育成に努める。 ⑫ ホームルーム活動や生徒会活動の充実を図り、教師と生徒の望ましい人間関係を育成する。
地域との連携を目指す開かれた学校づくりの推進	⑬ ホームページや広報誌等の充実を図り、保護者・地域への積極的な情報の提供に努める。 ⑭ 学校評議員や地域の声等を取り入れ、学校・家庭・地域社会が相互に連携・協力した教育を推進する。 ⑮ 外部への公開授業の在り方を研究し、本校に対する理解の推進を図る。

